

福島学院 平成30年度決算資金収支計算書の説明

【資金収支計算書について】

資金収支計算書はその年度に行った諸活動における収入及び支出のてん末を表したもので支払資金の動きがわかる計算書であり、企業会計でいうキャッシュフロー計算書に近い財務書類である。使用する勘定科目の内訳は助成制度の関係から「教育研究経費」「管理経費」などに分かれており、複雑な科目体系となっている。なお、平成27年度の学校法人会計基準の改正により、従前の計算書に加えて、教育活動、施設整備などの諸活動別に収支を表した活動区分別資金収支計算書も作成している。

※以下の説明内容は通常の資金収支計算書に基づくものである。

収入の部

1. 経常的収入 1,317,762千円 (予算比 107,419千円増)

【経常的収入について】

学校法人の諸活動に対応する経常的な収入で学生納付金収入や補助金収入が主な内訳となっている。

《納付金収入》799,754千円 (予算比 11,805千円減)

大学(大学院含む)、及び短大は予算積算において学生数763名(大学355名、短大408名：平成30年2月1日学生数参考 ※留年生等を含み、休学者除く)にて予算計上していたが、年度途中の退学者などがあり最終的な実績額は予算比11,397千円の減となった。認定こども園は、園児確定数(157名)で予算比408千円の減となった。

法人全体では予算比11,805千円減の799,754千円となった。

《手数料収入》 10,888 千円（予算比 560 千円増）

入学検定料、試験料などの実績により、10,888 千円の収入となり、予算比 560 千円の増となった。

《寄付金収入》 1,778 千円（予算比 803 千円増）

同窓生などからの寄付金、学生卒業記念品充当分などにより総額 1,778 千円の収入となった。

《補助金収入》 380,486 千円（予算比 27,914 千円増）

国庫補助金については私学事業団を通じて大学及び短大へ交付される経常費補助金として一般補助 177,385 千円、特別補助 97,786 千円、合わせて 275,171 千円となった。

大学・短大の 30 年度予算は 29 年度交付実績を参考として、復興特別補助金の減額要素を加味し、収入見積額を低めに計上していたが実績において一般補助、特別補助ともに想定以上に落ち込みが少なかったことや、全体の調整率や学生数が微増したことなどの影響により予算比 23,159 千円の増額となった。

また、認定こども園は市町村から給付される施設型給付費について、運営費補助金の個人単価分の差額分が増額されたことから認定こども園予算比で 4,755 千円の増となった。

法人全体では 380,486 千円となり、27,914 千円の増となった。

《付随事業収入》 10,643 千円（予算比 1,695 千円増）

大学では心理臨床相談センター相談料、メンタルヘルスセンター相談事業委託料収入、教員免許状更新講習受講料などにより 7,974 千円の収入となった。

短大では伊達市空き店舗活用事業委託料、及びサービス接遇検定等試験取りまとめ手数料などにより 1,762 千円の収入となった。

認定こども園においては、預かり保育料など 907 千円の収入があり、法人全体の総額は 10,643 千円となり、予算比 1,695 千円の増となった。

《雑収入》 114,167 千円（予算比 88,267 千円増）

退職金財団収入実績額、駅前施設利用料実績等により予算比 88,267 千円増の 114,167 千円となった。

2. 引当特定資産取崩収入 17,000千円(予算比 17,000千円増)

《退職給与引当特定資産取崩収入》17,000千円(現行予算比 17,000千円増)

役員退職金支出のため、退職給与引当特定資産から取崩しを行った。

支出の部

3. 経常的支出 1,349,540千円(予算比 11,831千円増)

【経常的支出について】

学校法人の諸活動に対応する経常的支出で人件費支出や補助金の対象となる教育研究経費、管理運営のための管理経費などがある。借入金利息支払も含まれる。

《人件費支出》941,312千円(予算比 76,300千円増)

教職員及び役員確定数、給与決定額・所定福利実績及び退職金実績により、全体で941,312千円の決算額となった。退職金支出で予算比増となったこともあり、最終実績額で予算比76,300千円の増となった。

《教育研究経費支出》265,017千円(予算比 30,848千円減)

大学104,563千円、短大119,724千円、認定こども園40,730千円の支出となり、総額では予算比30,848千円減の265,017千円となった。

大きな項目として、教育部門に按分した委託費(清掃・警備等校内整備教育部門派遣職員委託費)、奨学費(東日本大震災被災学生学費減免他)、教育研究用・実験実習用消耗品、授業計画等印刷製本費、教員経費等旅費交通費などに支出を行った。その他、通常の運営費用については緊縮予算方針とし、実際の予算執行についても支出抑制方針として運営を進めたことにより節減を図ることができた。

《管理経費支出》138,760千円(予算比 12,621千円減)

大学55,082千円、短大67,320千円、認定こども園2,682千円、法人13,676千円を支出し、最終的に予算比12,621千円減の138,760千円となった。

大きな項目として、広告費(昨年度に引き続き、震災前比で学生数が減少している福島県私立大学を対象とした東日本大震災被災私立大学復興特別補助に対応した学生募集経費として、テレビやラジオ、市内映画館でのCM費用、新聞広告掲載費用)、管理部門に按分した清掃・警備等構内整備委託費、などを支出した。

《借入金利息支出》4,451 千円（予算比増減なし）

私学事業団借入金の利息分として764千円（平成12年カーサ21建築借入）、及び3,687千円（平成23年本館、食栄館建築借入）を支出した。

《予備費》 0千円（予算比21,000千円減）

年度末の実績により零（ゼロ）とした。

4. 資産的支出 69,798千円（予算比8,326千円減）

【資産的支出について】

資産的支出は資産勘定の増減に係る支出で建物支出や教育研究機器備品、図書などがある。また、借入返済支出も含まれる。

《施設関係支出》2,243 千円（予算比2,243 千円増）

図書館情報センター空調機交換工事代などとして合計2,243千円を支出した。

《設備関係支出》28,675 千円（予算比10,569 千円減）

大学・短大は千葉記念ホール照明設備改修工事、各学科教員用パソコン（教員経費購入）などの機器備品及び図書購入費用で27,798千円を支出した。認定こども園では保育教諭使用ノートパソコンなど合計で877千円となった。法人合計では予算比10,569千円減の28,675千円となった。

《借入金返済支出》38,880 千円（予算比増減なし）

私学事業団借入金（平成12年カーサ21建築借入、平成23年本館、食栄館建築借入）の元金返済分として38,880千円の返済を行った。

収支差額

5. 収支差額 $\Delta 84,576$ 千円 (現行予算比 120,914千円増【改善】)

経常的収入総額は補助金収入が見込比で増額となったことなどにより、予算比 22,999 千円増の 1,213,619 千円となった。

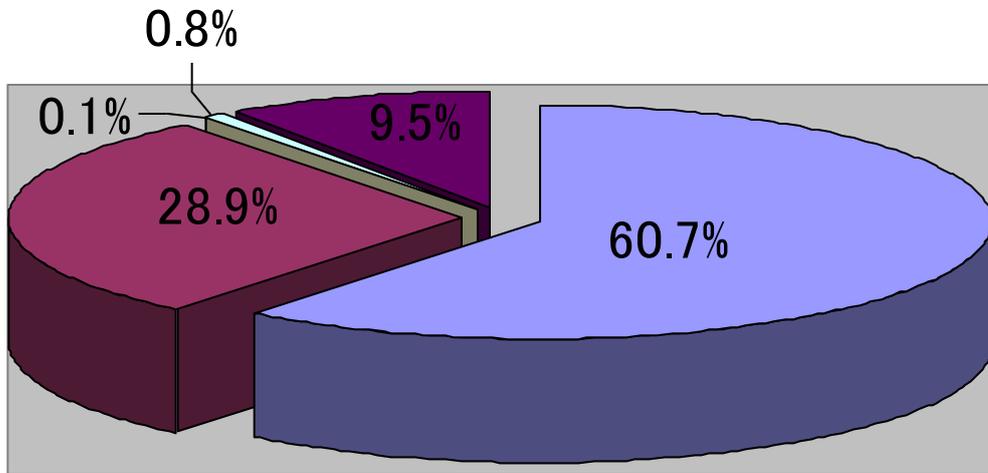
経常的支出は通常経費の節減を前提として予算執行を進めたが、結果的に例年より退職者が多かったこともあり予算比で増額となった。資産的支出は支出を抑制できたこともあり予算比で減額となった。

結果、経常的支出、資産的支出を合わせた支出合計額は 1,419,338 千円となり、予算比 3,505 千円の増額となった。

この結果、最終的な収支差額は、予算 $\Delta 205,490$ 千円に対して、決算が $\Delta 84,576$ 千円となり、予算比 120,914 千円の改善となった。

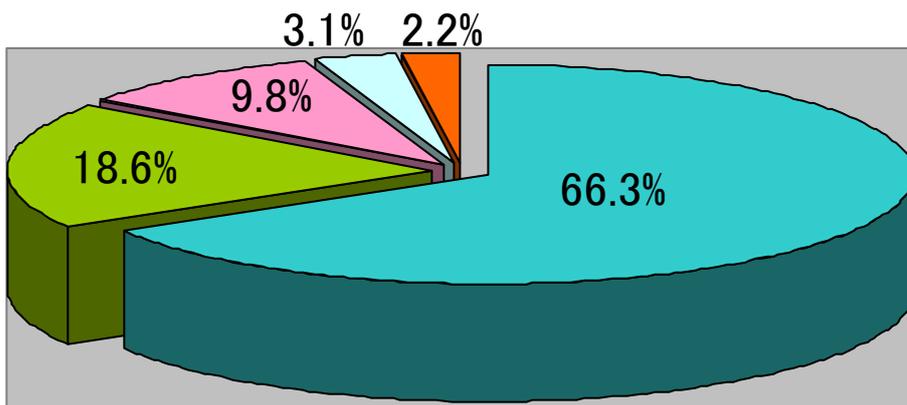
※前受金や預り金、調整勘定等については除外している

経常的収入の割合



■ 納付金 ■ 補助金 ■ 寄付金 ■ 付随事業収入 ■ その他

支出(経常的支出、資産的支出)の割合



■ 人件費支出 ■ 教育研究経費支出 ■ 管理経費支出
■ 借入利息・返済 ■ 施設設備関係